

# 2012年、夏学期、 『ことばと文学Ⅰ』 (大堀壽夫先生) シケプリ

以下の文書は、授業でのノートやスライドをまとめたものです。

I～VIまでのタイトルは、授業のなかに登場するわけではなく、便宜上わかりやすくするために振りました。各プリントにある「〇～」の小見出しもまた然りです。

誤字脱字があるかも知れません。お手柔らかにお願いします。

# I, 言語学とは、

## 言語類型論とは

### ○言語学とは、言語研究とは

#### ・言語学とは

…言語の「科学的」な研究

何が「科学的」かは、議論がある。

発端…古典研究のためにされていた、古典語（ラテン、ギリシアなど）の研究。

確立…19世紀頃。他の人文科学と同じ頃。

ジャンル…「民族言語学」「言語心理」など。

#### 問題意識・興味対象

- ・ことばによる伝え合いはなぜ可能なのか
- ・幼児の言語習得の過程とは
- ・言語において「美」とは  
などなど

#### 領域

- ・単位のサイズ  
音節、単語、文、談話などの分析のレベル（階層）によって、研究領域が分かれる。

#### ・表現 (expression)

表現の形に注目した研究。

形式 (form) とか記号表現 (signifier) に注目した研究を行う。

#### ・意味、内容

語の内容 (content) を研究。

辞書的な意味は「意味論」、  
場面に応じた意味は「語用論」が扱う。

#### ・歴史的観点

通時的変遷や共時的特徴を考察したりする。

#### ・方法

どんなデータを使うか。どんなアプローチをするか。

作例（実際に書いてもらった作文など）、

データベース、  
実験観察

などのデータを使ったりする。

意味、形式などの方面からのアプローチがある。

また、文化・歴史など、言語外の要因からのアプローチもある。

## ○言語類型論

- ・単位サイズ…全レベル
- ・表現、意味いずれも注目
- ・通時的、共時的変遷いずれも注目
- ・多くの言語からサンプルをとる方法。言語外要因にも注目。

### ・問題意識、興味対象

…世界にはどんな言語があるのか。

どんな多様性があるのか。

多様ながら、どういったタイプ分けができるのか。

論理的には可能でも、実際には滅多に見られないタイプはあるのか。

あるとしたらなぜか。

そもそもどうしてそんな言語類型が存在するのか。

## ○世界の言語とその類型方法

- ・数…6000-8000 語神話があるが、実際のところ、不明。

どこまでを「言語」、どこからを「方言」とよぶべきか。

政治的に存在を認められていない言語もある。

過去に滅んだ言語はカウントするのか。

などの議論があり、確定不能。

ただ、「数千語」の範囲内であるだろうと推定されている。

言語の種類の仕方には以下のようなものがある。

- ・語族…共通の祖先を持つと考えられる言語の集まり。そのため、一応、日本語も「日本・琉球語族」などと分類できる。

天涯孤独の言語は、一言語一語族とみなす。

\*分岐の古さは語族によって異なる。

セム…2万年くらい前

日・琉…4千年くらい前

- ・地域…地理的分類。

語族が違えど、隣接する地域では言語が似通うことが多い。

- ・社会的指標

…人口、GDP、宗主国 or 旧植民地、などで比較しても興味深い。

- ・歴史的類型

…歴史的観点からの類型。この授業ではあまり扱わなかった。

- ・構造的類型

…地域や語族などとは関係なく構造という観点のみに注目する類型。この授業ではここを扱った。

## II, 構成要素順

### ○「語順」の比較

語順…一般的に S,V,O の順のこと。  
これ以降は、「構成要素順」と呼ぶ。

・言語には構成要素以外にも順序のあるカテゴリーがある。

<例>

形容詞と名詞(Adj, N)

所有と名詞(Pos, N)

指事と名詞(Dem, N)

関係詞と名詞(RC, N)

前/後置詞と名詞(PreP/PosP, N)

助動詞と動詞(Aux, V)

主節と従属節(Main, Sub) etc...

構成要素順に加えて、これらのカテゴリーの順には、なにか共通性や規則性があるのだろうか。

[ exercise ]

と、いうわけで日本語と英語を比較。

	English	日本語
S,V,O	SVO	SOV
Adj,N	Adj-N	Adj-N
Pos,N	N-Pos,Pos-N	Pos-N
Dem,N	Dem-N	Dem-N
RC,N	N-RC	RC-N
PreP/PosP,N	Pre-N	N-Pos
Aux,V	Aux-V	V-Aux
Main,Sub	M-S,S-M	S-M

ここで、ある概念を導入。

<概念>「核 (=主要部)」

各カテゴリーには、文において核になるものがある。専門用語としては「主要部」という。

基本的には、名詞が主要部となる。ただし、Pre/Pos,N の場合は、Pre/Pos のほうが主要部だとする。

また、Aux,V については、「時制を表すほうが主要部」という考えに従うので、助動詞のほうが主要部とされる。

\*表では太字にしました。

ここから、おおむね次のような特徴が見えてくる。

<特徴>

日本語は主要部を後、

英語は主要部を前、

にする傾向がある。

\*ただし、英語のほうには、例外もある。

[exercise まとめ]

- ① 様々なカテゴリーで比較
- ② 概念を導入
- ③ 統一的説明を試みる。

日英の比較はできたので、次は、他の言語での比較に取りかかる。

### ○均一、不均一

様々な言語で構成要素順などを比較すると、次のようなことがわかる。

- ・均一な言語…各カテゴリーが統一的にきちんと揃う言語。

＜例＞日本語

- ・不均一な言語…各カテゴリーが統一的に揃わない言語。

＜例＞中国語

実は思ったより自由度の高い言語がある、ということをおきましよう。

#### \*中国語（北京語）について

- …主要部先行型かと思いきや、名詞の後置修飾はしない。
- ・しかも、SVO 構文のときに後置詞（助詞）を使い、SOV 構文のときに前置詞を使う。
- ・要するに、掟破りが頻繁におこる。

あまりに統一的で美しい理論のゴリ押しは、しないようにおきましよう。

また、均一な言語には、二種類ある。

- ・主要部先行型…日本語など。
- ・主要部後行型…ベトナム語など。

### ○説明の試み 1

(SVO,SOV,VSO...の数について)

S,V,O の順列は、理論上 6 通りあるはず。で、6 通りそれぞれの言語の数は、次の表のように分かれる。

SOV	SVO	VSO	VOS	OVS	OSV	自由
565	488	95	25	11	4	189

自由とあるのは、S,V,O の順が固定されていない言語のことを指す。

この数字は資料によって変化するが、おおむね上の表のような順位になる。また、地理的分布にも興味深い特徴がある。

上の表をみると、多数派と少数派に分類できる。

- ・多数派…SOV,SVO,自由,VSO
- ・少数派…VOS,OVS,OSV

では、こういった分類ができるのはなぜか？

＜考察＞

V を抜いて考える。すると、多数派は S-O、少数派は O-S の順になる。

S は動作主、O は対象、と見るならば、素朴（ナイーヴ）な認識に基づいて考えると、

S→O

のように影響が及ぶと捉えるのが妥当である。

よって S→O の構成要素順の方が自然だからではないか？

O→S では、自然界の現象とは逆になり、不自然に感じられるからではないのか？

上の考察はある程度、観念的なもの。

\*参考にしたのは、WALS と呼ばれる資料。正式には、

The World Atlas of Language Structures といい、書籍資料だけでなく web サービスも展開している。

web では、言語の様々な特徴のデータをまとめて、地図上に表示している。

英語が出来れば、興味深い内容に触れられる。課題でお世話になる可能性も。

## ○説明の試み 2

### (均一、不均一について)

均一な言語は、なぜカテゴリー間の性質が揃うのだろうか？

反対に、不均一な言語はなぜ揃わないんだろう。

### <考察 1> 「普遍文法」の考え方

- ① 全ての言語は均一な順序を持つ。
- ② 言語の「普遍文法」は先天的に決定されている。
- ③ 「普遍文法」のうち、主要部が前・後いずれかを定めるスイッチがあり、スイッチのボタンは遺伝的に決まっている。

という考え方。

→大堀先生としては、①の前提そのものが間違っているのでは？と考える。

### <考察 2> メリット

均一な言語だと、情報伝達のとときにいちいち注意する項目が少ないので、効率が良いからではないか？

→しかし、

？不均一なものが淘汰されきらないのはなぜ？

？そもそもなぜ不均一な言語が生まれたの？

などの疑問が発生する。

この疑問に答えるのが<考察3>。

### <考察3>歴史的説明

抽象的に考えるのではなく、個々の言語の個々の特徴の歴史について考えてみる。

例…中国語（北京語）の関係詞。

北京語では、Adj-N, Pos-N, RC-N は、すべて

○○的[名詞]

と書く。

古い漢文などでは、RC-N は

○所者○

のような表現をしていたが、次第に Pos-N と同じ表現が、他のカテゴリーにも拡張されたのではないか？

#### \*日本語の均一性

日本語は、気合を入れたら、1000年前の文でも、なんとなくわかる。語彙などは変化しても、構成要素順・関係詞と名詞の順などはほとんど変化しなかったためである。中国語のような大きな変化がなかったためである。

### ○古英語の分析

\*古英語のテキストをもとに、構成要素順を分析。以下、要点のみ記録する。

古英語…Old English。6～7世紀、アングロサクソンが侵入した頃の英語。オリジナルなテキストはほとんど現存せず、後世に羊皮紙に記録された写本で今に伝わる。

中期英語…Medieval English。ノルマンコンクエスト以後、ノルマン人の使う仏文が公用語になっていた時期に、庶民が使っていた英語。フランス語の影響を強く受けた。シェイクスピアが登場するころ、活版印刷の登場により現在の英語へと変化する。

#### <古英語の構成要素順>

- ・構成要素順は、比較的自由。
- ・ほかのカテゴリー（形容詞-名詞など）は、順が固定されている。
- ・ただし、条件によって構成要素順が決まる場合がある。

条件…ふつうは SVO。

しかし、場面転換する場合、VSO になる。 など。

こうした規則性を、分析によって発見していく。

### Ⅲ、格、文法、意味役割

#### ○格、文法、意味役割

言語の分析には様々な領域がある。

語彙論	品詞について
形態論	格標識について
統語論	文法関係について
意味論	意味役割について
語用論	情報構造について

そして、ここでは格、文法、意味役割に注目。

- ・ 格標識…観察可能、実体がある。  
(具体的な形がある)
- ・ 文法関係…抽象的かつ理論上必要なもの。
- ・ 意味役割…抽象的だが、実体(はっきりとした意味)はある。

#### ○格標識

文や談話に、具体的に現れる。

格標識を多く持つ言語、そうでない言語もある。

格標識がどの名詞にもつく言語、限られている言語もある。

<例>

- ・ 日本語…格標識は多い。名詞に必ず付く。
- ・ 英語 …格標識は少ない。代名詞しか、格変化しない。

・ 日本語の代表的な格標識は下の表の通り。(覚えましょう。)

格	主格	対格	与格	属格
英訳	nominative	accusative	dative	genitive
格標識	～ガ	～ヲ	～ニ	～ノ

<例>

兄が	私に	姉の	鉛筆を	くれた。
(主格)	(与格)	(属格)	(対格)	

・ 世界にはもっと極端な言語があるわけで…

<例>フィンランド語の「talo (家)」

主格	talo	～が
属格	talon	～の
対格	talon	～を
様格	talona	～として
分格	taloa	～の部分
変格	taloksi	～になる
内格	talossa	～の中で
出格	talosta	～の中から
入格	taloon	～の中へ
所格	talolla	～の所へ
離格	talolta	～の方から
向格	talolle	～の方へ
欠格	talotta	～なしで
具格	talon	～で

正式には、格変化を格標識とするが、

- ・ 後置詞をひっつけて格を表す形態(例：日本語)は、格標識とみなす。
- ・ 前置詞をひっつけて格を表す形態(例：英語)も、格標識とみなせなくはない。

\* 日本語の「名詞+助詞」の組み合わせは「格を持った名詞句」と解釈できる。

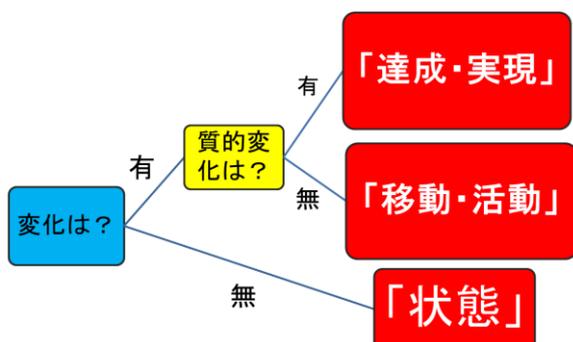
## ○意味役割

2つのものの中には、一方からもう一方への動作の波及について考えることができる。

つまり、文の中には、動作を「する側」、「受ける側」が登場することになる。

### ・意味役割の分類

動作は、その動作を「する側」が「受ける側」へどれだけの影響を与えるのか、などの内容に基づいて分類できる。



上の表の赤いバルーンの中が、代表的な動作の分類。

表のように、

- ・「受ける側」が変化するか？
- ・変化するなら、質的変化か？

という、2つのふるいにかけて分類する。

また、

- ・移動…自律的/使役的
  - ・状態…心理・感覚/位置
- という下部分類ができる。

下の表は、それぞれの動作に対応する動詞の例。

	例
達成・実現	壊す、割る、建てる
移動(自律的)	向かう、行く、落ちる
移動(使役的)	投げる、送る、置く
活動	読む、話す、学ぶ
状態(心理・感覚)	見る、聞く、好きだ
状態(位置)	いる、ある、住む

この分類に従い、意味役割が決まってくる。

### ・達成、実現

動作を始める側

…「動作主(agent)」。意思をもって動作を行う。

動作を受ける側

…「被動者(patient)」動作を受けて、状態が変化する。

### ・移動(自律的)

動作を始める側

…意思があれば「動作主」。

意思がなければ「主題(theme)」

動作を受ける側

…自律的、つまり主に自動詞をよく使うということなので、受ける側はない。

場所

…「～から」の方が起点(source)、「～まで」の方が着点(goal)。

「(だれそれ)へ」という場合、この(だれそれ)は着点とみなす。

・移動(使役的)

動作を始める側…動作主

動作を受ける側

…主題。たとえば、「投げる」という動作の場合、「投げられる」ものが主題。

・活動

動作を始める側…動作主

動作を受ける側

…主題、または対象(object)。状態の変化がない、または変化が完了しきらないもの。

例えば、「読む」という動作の場合、「読まれる」本は、読まれたからといって腐ったり色あせたり、状態が変わるわけではない。この「本」の意味役割は「主題」といえる。

\*object では、目的語という意味にもなってしまうややこしいので、この授業では主題に一括。

\*対象の分量が決まっている場合、動作は「達成」に分類される。

<例>

教科書を読む …活動

教科書を 20 ページ読む …達成

・状態(心理的關係、感覚)

動作を始める側

…経験者(experiencer)。何かを感じる、感知する側。

動作を受ける側…主題

・状態(位置)

そこにあるもの…主題

ものがあるところ…場所(location)

簡単に言うと下の表のようになる。

	動作を始める側	動作が及ぶ側	場所
達成・実現	動作主	被動者	
移動(自律的)	動作主・主題		起点→着点
移動(使役的)	動作主	主題	起点→着点
活動	動作主	主題・対象	
状態(心理・感覚)	経験者	主題	
状態(位置)	主題		場所

\*「主題」はふつう、モノに使い、人には使わない。

また、感覚的には、「動作主」「経験者」「主題」「被動者」「起点」「場所」「着点」は、下のように配置できる。



## ○文法関係

文、節を作る＝意味役割と形を結びつける  
＝意味役割を形にする

である。だから、意味役割を形にする手段として、「格標識」というマークがある。

<例>

(動作主)	(被動者)	
子供	紙	破った
	↓	
子供が	紙を	破った

ただし、ここには問題がある。

問題…意味役割と格が1対1対応しない場合がある。

すなわち、

- ・異なる意味役割なのに同じ格。
  - ・同じ意味役割なのに異なる格。
- という、場合がある。

<例>

に、	意味役割
学校に、行く	着点
教会に、ある	場所
私に(は)、分かる	経験者
ヤツに、殴られる	*受け身

\*受け身については後述。

この問題を扱うために必要なのが、「文法関係」。

## ・文法関係

たくさんある意味役割のうち、コレとコレとコレはまとめて主語にしよう。主語にしたうえで、主格の格標識をつけよう。

というような感じで、意味役割と格との中間レベルとして、仲介する。

## ・デフォルト(default)

文法関係の基本原則。

日本語や印欧系言語など、多くの言語では

動作主、経験者→主格

被動者、主題、場所→対格

となる場合が多い。

\*ただ、たまに、主題が主格になることもある。



しかし、デフォルトが効かない場合がある。

- ① 意味的にデフォルトから外れる場合。例えば、心理述語などがあるとき。

<例>私には意味が分からない。

- ② 特定の構文の場合。例えば、受け身の構文など。

- ③ 能格型言語、活格型言語の場合。これについては後述します。

## IV,主語を問い直す

### ○能格型言語

以下の用語は Dixon Robert M.W 氏の論文からの引用。用語には学者によって揺れがある可能性がある。

・ S,A,O

S…intransitive subject

自動詞構文での「動作をする側」

A…transitive subject

他動詞構文での「動作をする側」

O…transitive object

他動詞構文での「動作を受ける側」

・ 対格型言語(accusative type)

日本語や多くの印欧語では、

S,A…主格 (nominative, ~が)

O…対格 (accusative, ~を)

という格標識になる。

<例>私が走る。

私が蚊を叩く。

このように、Oのみを対格として区別した格標識をする言語を「**対格型言語**」という。

・ 能格型言語(ergative type)

ところが、ディルバル語などでは、

S,O…絶対格(absolute, )

A…能格(ergative)

という格標識をする。

このように、Aのみを「能格」として区別した格標識をする言語を「**能格型言語**」という。

<日本語がもし能格型言語だったら>

例えば、

絶対格…~ミュ

能格…~ニユ

だったとすると、

私が走る

→私ミュはしる

私が蚊を叩く

→私ニヤ蚊ミュ叩く

…なんてことになる。

現在では対格型話者のほうが多い。対格型言語が欧米に多く、歴史的な経緯から、能格型言語コミュニティが「周辺」に追いやられたものかと考えられる。

ただ、言語そのものの数でいえば、能格型言語の数は多い。

・ 能格型言語と省略

たとえば

「父が私を殴り、泣いた。」という文で、「泣いた」のはだれか、ということを考える。

候補は、「父」か「私」。

ここでは、格標識に注目して考える。

略されているのは、格標識が S になるもの。

日本語は対格型言語なので格標識の点では S と A が近い。よって、略されたのは、格標識が A だった名詞、すなわち、「父」だと考えられる。

では、

「父ニヤ私ミュ殴り、泣いた。」の場合はどうか。

この場合（つまり、能格型言語の場合）、S と O が近い。よって、略されたのは、格標識が O だった名詞、すなわち「私」だと考えられる。

#### ・格や一致の分裂

分裂…同一言語内で、条件に応じて対格型、能格型が選択される現象。

<例>

グルジア語…完了した状態変化を表す文のときのみ能格型になる。

ディルバル語…もともと能格型の特徴を持っている。ただし、一/二人称代名詞が関わると、対格型になる。三人称代名詞が少しでもはいると能格型のまま。

アボリジニの諸言語

…親族名詞（父、母など）が入るときのみ能格型。なんていう言語もある。

グルジア語のようにある条件でだけ現れる能格を「分裂能格」ということがある。

純粋な能格型言語は現存しない。現在、どういった条件で分裂が起きるのかについての研究がなされている。

#### ○活格型言語

##### ・S の分類

日本語では、S はすべて「～が」で格標識する。

しかし、「～が」とつく名詞でも、意志が伴うものと、そうでないものがある。

<例>

私が歩く。…意志的、能動的  
石が転がる。…非意志的、受動的

##### ・活格型言語(active type)

S のうち、  
意志が伴うものは、A に近い  
意志が伴わないものは、O に近い  
といえる。

Aに近いSをSa、Oに近いSをSo  
とすると、

Sa,A / So,O

で格標識を分ける言語がある。

こういった言語を、「格活型言語」と  
いう。Activeなもの、inactiveなもの  
とを、格標識で区別するからである。

<例>ポモ語（北米）

Sa, A…há      So, O…wí

格活型言語では、自動詞の構文でも  
格標識によって、主語が意志を持って  
いるのか否かがはっきりわかる。

#### ○その他特筆すべきこと

##### ・ワンパヤ語の例

格標識は能格型である。だから、名  
詞（句）は絶対格と能格にわかれる。

ところが、動詞の（人称）一致は、  
まるで対格型言語のようになる。つま  
り、一致は主格と対格の区別に基づい  
ている。

ややこしいが、一文の中で、分裂が  
起きる言語がある、ということ。

##### ・Oの分類

Sが分類できたように、Oも分類で  
きる。

#### [分類]

OらしいO…被動者を表す場合。つま  
り、動作を直接受けて変  
動したもの。

##### OらしくないO その一

…主題などを表す場合。つ  
まり、動作による影響で  
変化したりしないもの。

##### OらしくないO その二

…Oが動作の一部になっ  
ているような場合。

<例>歌を歌う、読書をする、  
寝を寝（みをぬ）

##### ・対格型、能格型、活格型以外に…

全部一括り（つまり、格標識がない）

…中国語など。特に中国語は  
一致も格もなく、構文により  
主・対などを把握する。

S/A/O…現存しない。AとOが全く  
同じだと、他動詞の構文でど  
ちらが主格かわからず、格標  
識として不十分だから。

S/A/O…存在する。機能は十分果たせ  
るが、区分が過剰。

## V,品詞について

### ○品詞にはなにがあるか

<さまざまな品詞>

動詞、名詞、形容詞、前置詞/後置詞、  
接続詞、副詞、代名詞、疑問詞、指示  
詞、助動詞

…こちらへんは、日本語にも多言語  
にも多く見られる。

関係詞、冠詞

…これらは日本語にはない

連体詞、形容動詞、

…これらは日本語に特有。

類別詞…東アジアに特有。

これらさまざまな品詞のうち、文を  
作るのに必須と思われるのは動詞、名  
詞、形容詞。

では、それらを普遍的に定義するこ  
とはできないのか。

### ○動詞、名詞、形容詞の定義

・プロトタイプ

…「～らしい○○」のように、誰もが  
認める「プロトタイプ」を基本に物事  
を認知すること。

品詞にもプロトタイプがある。ただ、  
プロトタイプを決めても、例外が発生  
する。

<例>

	プロトタイプ		例外
動詞	行為を表す	→	rain, weight, cost
名詞	モノを表す	→	死、美、思考
前置詞	位置を表す	→	of, except

### ○品詞の形態

動詞、名詞、形容詞の形態について、  
したのようにまとめることができる。

	物体	性質	行為
指示	<b>vehicle</b>	whiteness	destruction
修飾	vehicular	<b>white</b>	destroying
叙述	be vehicle	be white	<b>destroy</b>

縦軸…語用論的区分。その語が文で  
どんな役割をするか。

縦軸…意味論的区分。その語がどん  
な意味を表すか。

赤い太字で表したのが、プロトタイ  
プに当てはまる形。すなわち、名詞な  
ら意味的には「物体」を表し、「指示」  
の役割をする、というプロトタイプ。

表をみてわかるのは、プロトタイ  
プをずれると、なんらかのマークが加わ  
る、ということ。

マークがあることを「有標 (marked)」、マークのつく性質を「有標性(markedness)」という。

### ○形容動詞って...

英語の形容詞 sunny は、日本語では形容動詞「晴れだ」。これをプロトタイプの表に当てはめると、

	性質
指示	晴れ
修飾	晴れの
叙述	晴れだ

「晴れ」という名詞になにかマークがつくように解釈できる

だったら、形容「動詞」というのは妙。形容「名詞」というほうが妥当かもしれない。

### ○形容詞の比較

#### ・形容詞の数

日本語の形容詞は数百個程度。フランス語の形容詞は数千個。しかし、形容詞がほとんどない言語もある。

#### <Supyire 語>

アフリカ中部東側、ニジェール・コンゴ語族。形容詞が十数個しかない。

#### ・形容詞の意味

形容詞がカバーしうる意味は次のようになる。

### <形容詞の意味カテゴリー>

基本的なもの…次元、年齢、価値、色彩



物質的性質、速度  
人間の性質

非基本的… その他

言語ごとに形容詞の数は違えど、上の表に照らすと、規則性が見つかることがある。

#### <例>

Supyire 語…次元、年齢、価値、性質、色彩など

日本語…次元 (高い、低い)、  
年齢 (若い)、  
価値 (良い、悪い)、  
色彩 (赤い、青い)、  
物理的 (固い、冷たい)、  
人間 (ずるい、優しい)、  
速度 (速い)

→基本的な意味ほど、形容詞に含まれる傾向がある。

## VI, 認知言語学について

### ○認知言語学とは

認知言語学…ことばには客観的な側面があるが、主観がことばによって与えられる場合もある。

ことばを通して現れる、モノのとらえ方について探求する学問。

### ○語彙と認知言語学

語彙について考える。

文化語彙…文化のキーワード。その文化の特質や、モノの見方を表す語彙。

<例>

- ・具体的なモノ  
…「布団」「寿司」「着物」など
- ・制度に関わるもの  
…「二枚目」「十八番」「正念場」など
- ・観念的なもの  
…「粋」「野暮」「もったいない」など

<研究例>

九鬼周造…『「いき」の構造』

土居健郎…『「甘え」の構造』

C.S. Lewis…world, sad, nature などを研究。

<分析方法>

- ・フレーム：場面による分析。
- ・対照分析：翻訳やネイティブチェックなどで、言語間の比較調査。
- ・コーパスによる集計：大容量の言語データを使う。使用頻度などを調査。
- ・新語・俗語の調査（「萌え」とか…）

### ○FAIRの研究

研究者 Wierzbicka の研究。Fair というのは、現代のアングロ文化で最も重要な価値観のひとつだ、と指摘。

- ・他のヨーロッパ語やセム語では、完全に対応する語がない、と指摘。  
（\*日本語でも「公平」だけではカバーしきれない）
- ・コーパスデータでも、just などの類義語に比べて頻度が高い。

・フレームを考える。

…fair という語が出てくる場面では、「誰かに対して」fair か否かの判断がなされるようだ。

→・fair とは、他人と何かを一緒に行うときに使う語。集団に良い結果をもたらすための共通理解という側面がある。

・fair は必ずしも全員にとって平等ということではない。一定の「理（こ

とわり)」を互いが受け入れ、そのうえで善意をもって行動することが fair だ。

・ That's not fair というときは、どんなルールが破られているかを明示することで根拠を示すことになる。

・ not fair は、絶対的な道徳的判断ではなく、抗議や反感を表していることが多い。(バブルのころに日本が not fair と言われたように...)

## ○FAIR の研究その 2

G. Leech, P. Rayson, A. Wilson らの研究より。

・ 頻度の近い語との比較

100 万語あたりの頻度が fair と近い単語との比較。

肯定形、否定形の出現比を比べると、fair の否定形の出現が突出して高い。

・ アングロ文化的な背景

「人間相互の関わりは個人の欲求に基づいているがそれは全員のために一定のルールによる制限を受けねばならない。」という背景がある。

であるから、

fair

=人類普遍の概念

=生物学的に決まった概念

という考えには、疑問符が付くのではないか。

・ 仏英の違い

フランスの書籍『Moral Judgement of the Child』(原語は仏語)の「juste でないこと」の項目の英訳が「not fair」とされていた。

この英訳は、まずいのではないか。

仏語の juste は、英語の right に対応する場合がある。これらの語は、「相互の協調」という意味がない。

・ 歴史的観点で

現代的な fair の意味がボチボチ出始めるのが 18 世紀末。境界例が見られる。

19 世紀になると、明確に今日的な fair が使われるようになる。

→fair の今日の意味は、近代市民社会の発達にともなって現れたのか。

以上。